

公共交通機関の利用に関するバス事業者の取組状況について

平成17年 7月13日
(社)日本バス協会

1. 地方公共団体と交通事業者の連携

静岡県・伊東市（伊東ゆうゆうパス）

- ・伊東市と伊豆東海バスが連携し、伊豆東海バスが発売する高齢者パス「伊東ゆうゆうパス」の購入費の一部助成制度を伊東市が平成16年度から実施
- ・助成対象：伊東市内在住の70歳以上
- ・助成額：1人5,000円 年一度

2. 地方公共団体を中心とした交通事業者と観光施設又は地元企業との連携

青森県・八戸市（八戸えんじょいカード）

- ・八戸市が中心となって「八戸カード運営協議会」を運営
- ・八戸市内バス（南部バス・八戸市交通部）、鉄道（JR八戸線・八戸～種差海岸駅間）1日乗り放題（大人700円・小人350円）
- ・観光施設、宿泊施設、飲食店、お土産店で割引やサービスが受けられる（122箇所）
- ・実施期間：平成16年7月1日～平成18年3月31日

茨城県・土浦市（土浦市のまちづくり活性化バス・きららちゃん）

- ・運営は「NPO法人まちづくり活性化バス土浦」
- ・土浦市、交通事業者（関東鉄道・土浦地区タクシー協同組合）、NPO法人（商工会議所・地元商店街）の3者が協定して土浦市を中心に路線バスが通

- っていない地域を3ルート循環運行（1乗車 大人1000円・小人500円）
- ・協賛店（60店舗以上）で1,000円以上の買い物をすると地域通貨券「きらら」が発行され循環バス・タクシーの運賃として利用できる
- ・平成17年3月から試験運行開始（17年4月の利用実績：8,600人）
- ・運行費補助：土浦市が年間1,000万円

神奈川県・横浜市（みなとみらい「100円バス」）

- ・「みなとみらい21地区」において利便性の向上と公共交通の利用促進による渋滞緩和を目的に横浜市交通局が「みなとみらい100円バス」の運行を開始
- ・赤レンガ倉庫など横浜の代表的な観光スポットが集中する「みなとみらい21地区」を最寄り駅から3ルート（桜木町駅循環・日ノ出町駅循環・横浜駅）平成12年10月から順次運行
- ・運行：土曜、日曜、祝日、夏休み等
- ・「みなとみらい100円バス運行協力委員会」（協賛企業・団体等）が運行赤字分を負担
- ・1日あたりの利用実績（15年度実績）
3ルート合計 土休日4,600人

新潟県・新潟市（新潟市観光循環バス）

- ・新潟市内に点在する観光施設（11箇所）を効率的に巡るため、新潟市が企画して一般バスとして新潟交通が運行
- ・観光循環バス専用の1日乗車券（500円）を利用することで、ルート上の観光施設で入館料などの割引が受けられる
- ・運送収入と経費の差額を新潟市が補助
- ・平成16年4月から運行（平成16年度は5万人以上の利用実績）

3 . 交通事業者と商業施設等との連携

愛知県・岡崎市（お買い物バス）

- ・名鉄バスとイオン岡崎ショッピングセンターが連携
- ・平成12年9月にオープンしたショッピングセンターに一般バスとして、名鉄岡崎駅～イオン岡崎SC～JR岡崎駅を結び、小型バスで運行（有償）

愛知県・名古屋市（お買い物バス）

- ・名鉄バスとイオン熱田ショッピングセンターが連携
- ・平成15年6月にオープンしたショッピングセンターと貸切契約により金山総合駅～イオン熱田SCを結び、中型バスで運行（無償）

山口県・下関市（お買い物バス）

- ・平成15年7月からサンデン交通と下関大丸が連携
- ・バス会社が昼限定（9時～16時）の割引バスカードを発行、大丸では購入額に応じてバスカードを提供

奈良県（大手企業の従業員輸送）

- ・奈良交通と椿本チェーン京田辺工場（従業員 約1,000人）が連携（貸切契約輸送）
- ・JR学研都市線「京田辺駅」および近鉄京都線「新田辺駅」の最寄りから工場までの直通便の運行
- ・利用状況：1日約500人